

第2部 「目標とする姿」への取り組み状況

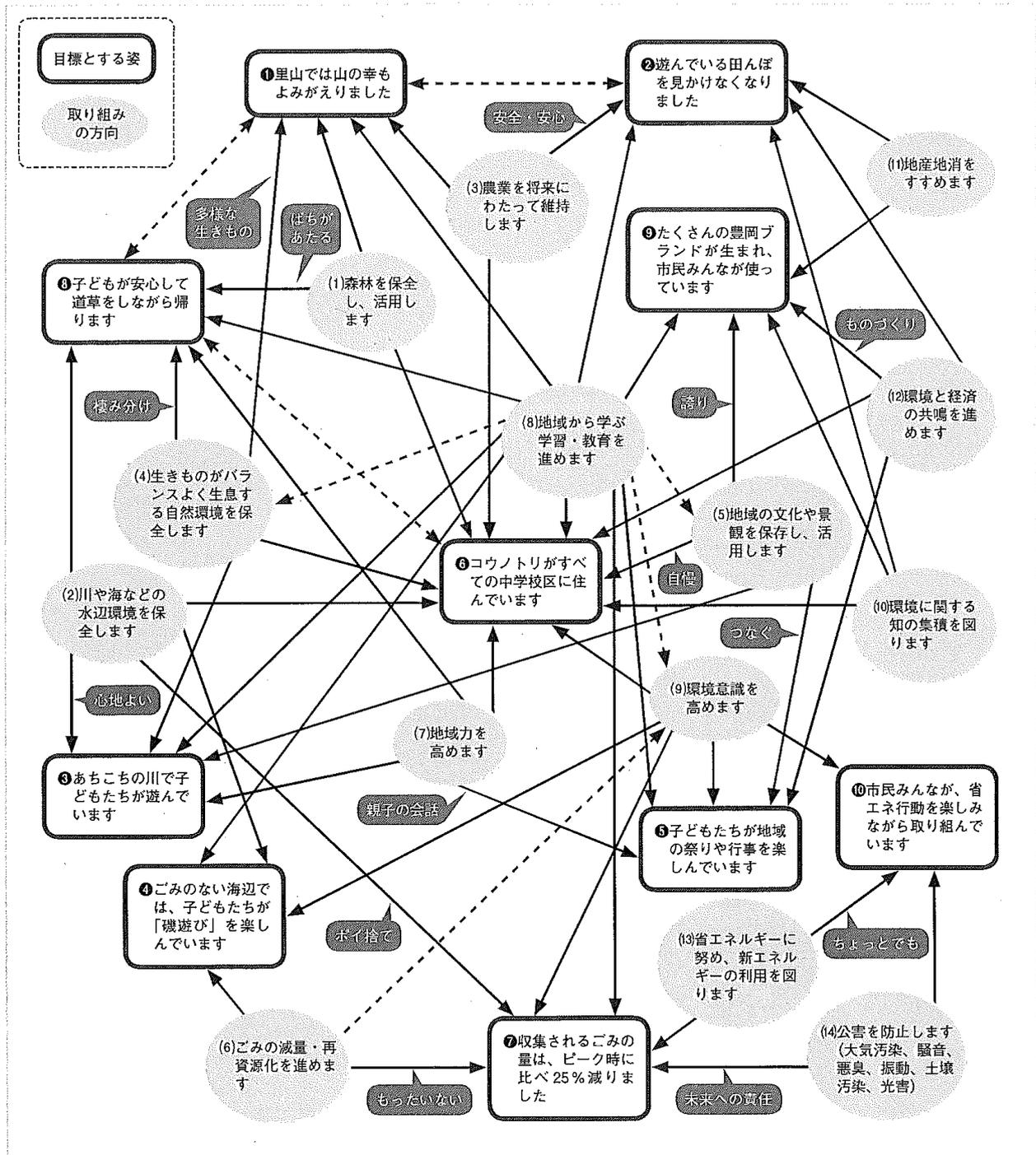
■取り組み状況について

「目標とする姿」一つひとつについて、平成28年度を含む「主な指標の変化」（平成19年度～）と28年度の特徴的なトピックを掲載し、現時点での取り組み状況の評価を行っています。

■目標像に向けた取り組みの方向

10個の「目標とする姿」と、それを実現するための14個の「取り組みの方向」の相関関係を表す展開図は下記のとおりです（環境基本計画P78「資料編」資料1参照）。

一つの行動が、いくつもの目標像実現につながっています。



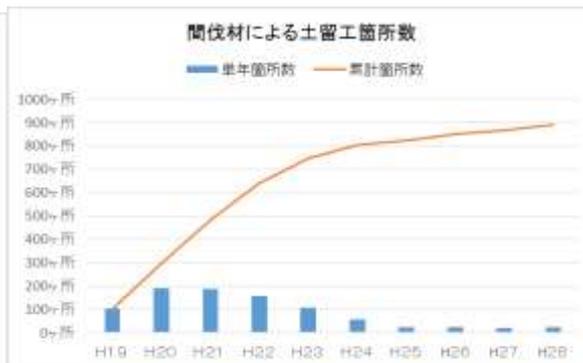
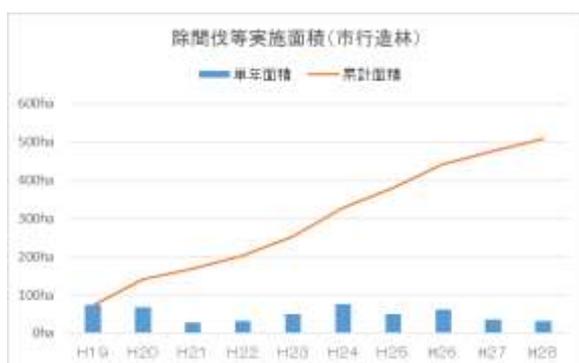
目標像 01 「里山では山の幸もよみがえりました」

【具体イメージ】 木材が燃料としても利用されるようになりまし
 した／山菜やマツタケがたくさん採れるようになりまし
 た／有害鳥獣が人里近くに出て来なくなりました

【実現するための主な取り組み方向】 方向 01 森林を保全
 し、活用します／方向 04 生きものがバランス良く生息す
 る自然環境を保全します

1 主な指標の変化（平成 19～28 年度）

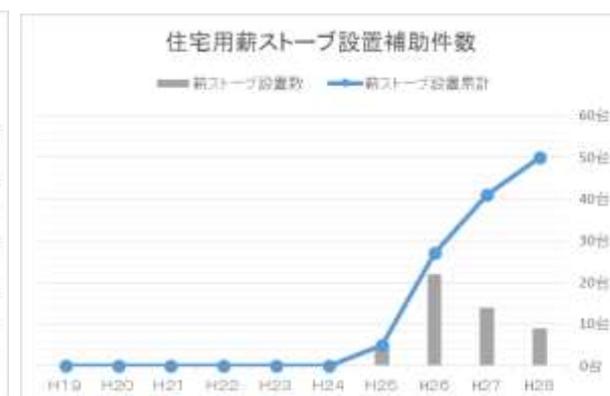
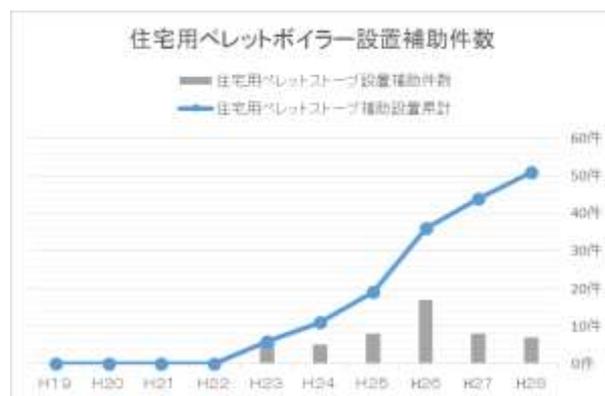
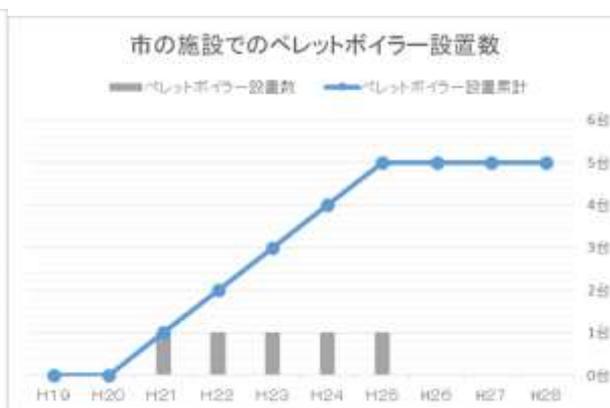
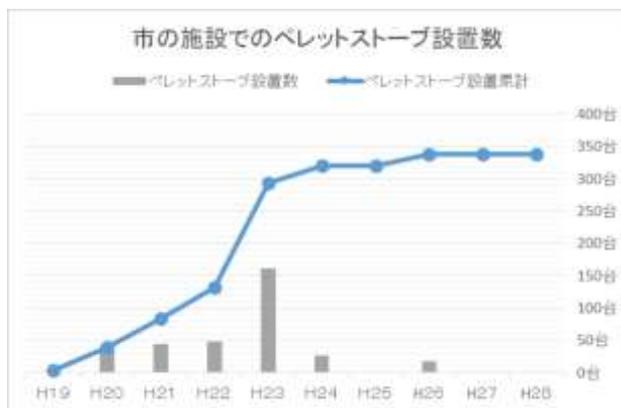
（1）里山での間伐等の状況



【解説】

- ・うっそうと茂った里山に光を入れるための「除間伐（じょかんばつ）」と、間伐材（かんばつざい）の有効利用を進めています。
- ・間伐材をそのまま地すべり防止に活用する「土留工（どどめこう）」もその一つです。また、搬出してペレットを製造し自然エネルギーとして利活用もしています。

（2）燃料用ペレット等としての間伐材利用

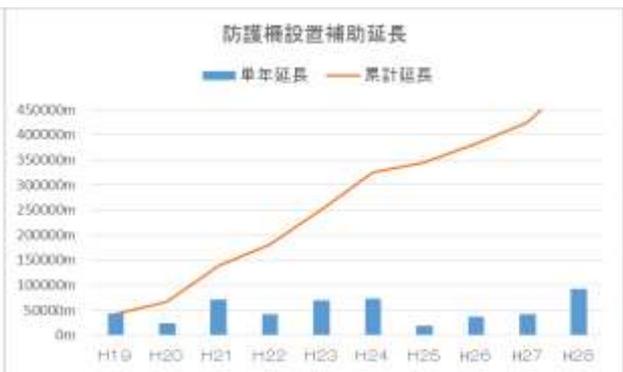




【解説】

- ・間伐材をはじめ木材利用の一つとして、木質ペレットの製造と消費拡大を進めています。平成 26 年度の製造量をピークに減少しています。これは、ペレットの使用コストに比べ灯油価格の方が安価であったため、一部の温泉施設等でペレットの使用が控えられたことが原因と考えられます。
- ・住宅用ペレットストーブ補助件数については、事業所など法人を含む総件数です。

(3) 有害獣への対応



【解説】

- ・市では引き続き、シカ有害被害撲滅大作戦を展開しており、平成 28 年度年間捕獲目標 6,500 頭に対して、6,568 頭が捕獲されており、捕獲目標をクリアしていますが、前年度より 700 頭以上減っています。(狩猟による頭数を含む)
- ・左上の有害鳥獣駆除数のグラフは、有害鳥獣駆除のみの数値であり、11 月から 3 月までの狩猟期に個人が捕獲したものについては含まれていません。

ペレットの普及を目指して！

豊岡で、ペレットの製造と言えば「豊岡ペレット」が知られていますが、もう 1 社、川中建築（城崎町来日）も取り組んでおられます。

こちらのペレットも、地域にある原材料でペレットを製造することにより、お金を地域内で循環させることを目指し、製材加工工場が出る端材を利用するとともに、最近では、原料の一部に葦を利用したペレットを製造・販売されています。

まだまだ、一般の方にはなじみが薄いペレットを多くの人に知ってもらうため、様々なイベントに出かけて行ったりは、ペレットを利用してピザや焼き芋を焼いて PR に取り組まれています。温度調整のできるレンタル・ペレット窯もあります。皆さんの近くのイベントでも利用して、ペレットの消費拡大と PR につなげていきましょう。



2 平成 28 年度評価

- 住宅へのペレットストーブや薪ボイラーの設置が、浸透してきている。
- 有害獣対策では期間限定であるが、熊の狩猟も始まった。
- ▲有害獣対策として駆除や防護柵の設置は進んでいるが、まだまだ解決にはなっていない。
- ▲クマの目撃情報が多くあり、山菜狩りなどを楽しみにしていた人も、山に入れなくなってきている。
- ▲ペレットの消費量が伸び悩んでいる。

もっと
がんばろう

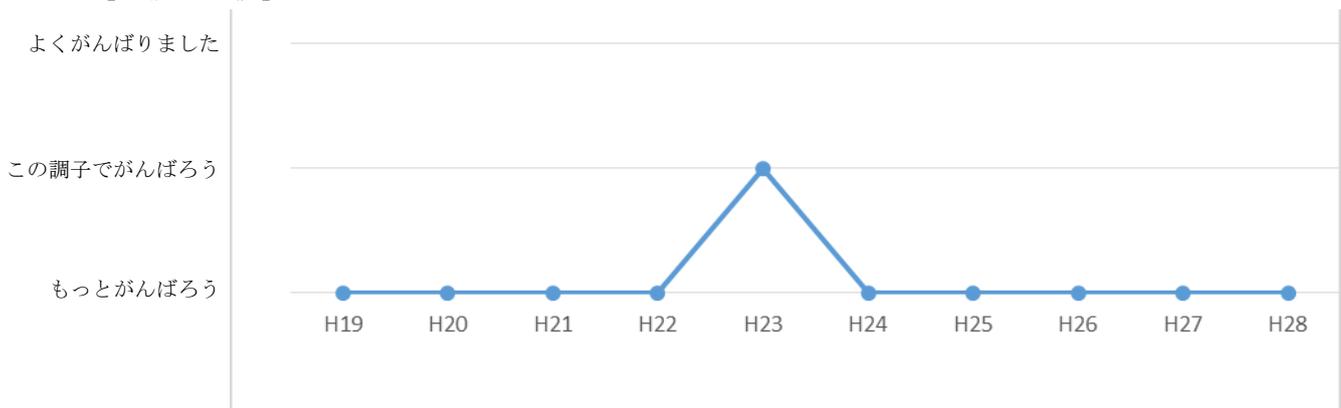
3 10 年間の評価

- 平成 23 年度にペレットの製造工場が出来て、域内の間伐材の利用が進んでいる。
- ペレットストーブ、ペレットボイラーの設置が進み、自然エネルギーの利用者が増えつつある。
- ▲ペレットの消費量が増えず、当初目標数量に届いていない。
- ▲有害獣対策として駆除や防護柵の設置は進んでいるが、個体数の減少が実感されるには至っていない。耕作放棄地も中山間地では多く見られ、人と動物の境界が民家の近くにまで及んでいる。

【環境審議会からの一言】

体感的に、山ぶき、ぜんまい、ごみや栃の実などの山の幸がシカなどに食べられて激減している。そのため、山菜採りを楽しむ人も減り、民宿等での利用に支障が出ている。

【評価の推移】



目標像 02 「遊んでいる田んぼを見かけなくなりました」

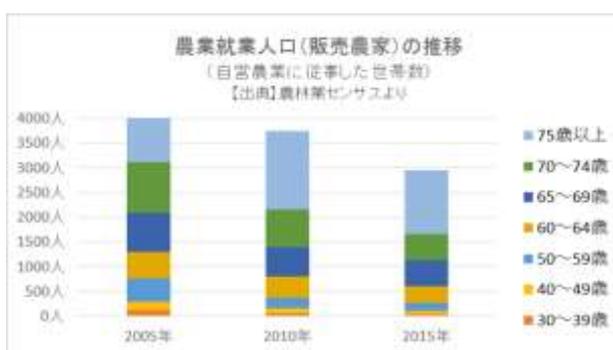
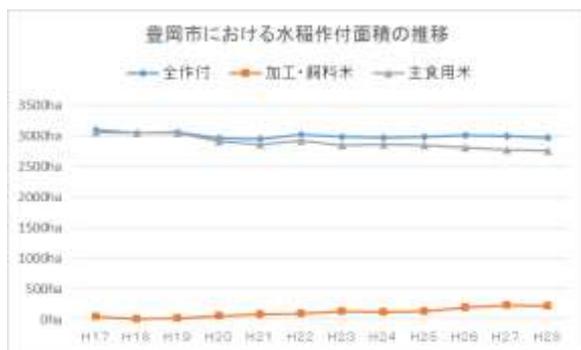
【具体イメージ】 農薬や化学肥料に頼らない農業が広がっ

ています／就農者が増え、地産地消が進んでいます／農地がビオトープや燃料作物など様々な用途に活用されています

【実現するための主な取り組み方向】 方向 03 農業を将来にわたって維持します／方向 11 地産地消を進めます／方向 12 環境と経済の共鳴を進めます

1 主な指標の変化（平成 19～28 年度）

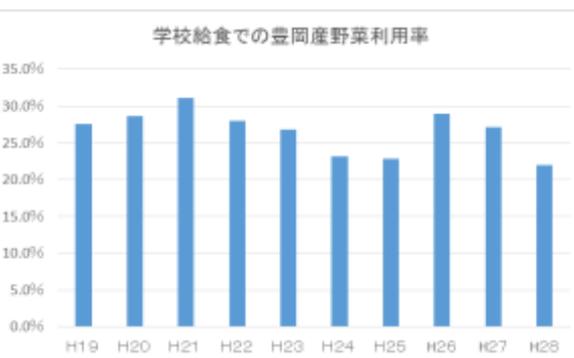
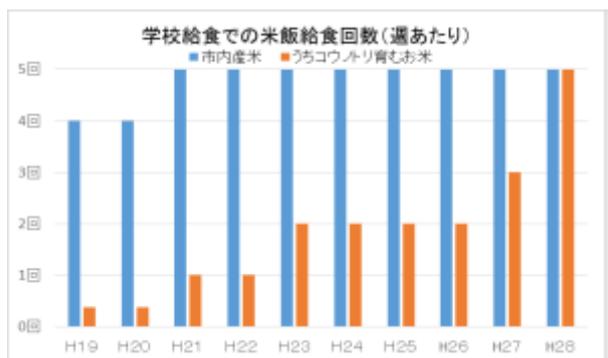
（1）豊岡の農業の現状



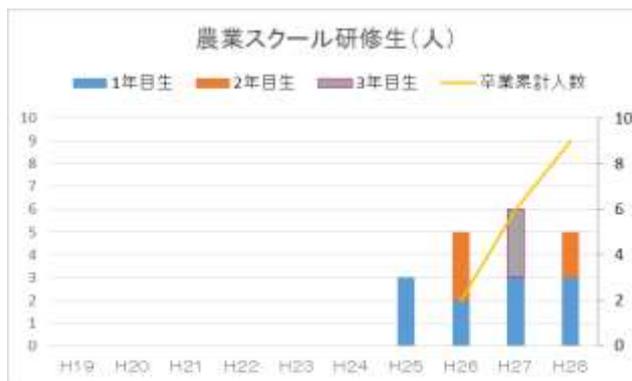
【解説】

- ・「コウノトリ育む農法」をシンボルに、「豊岡型環境創造型農業」（農薬 50%以上・化学肥料 50%以上減）を、平成 33 年に全耕作面積の 51%（過半数）にすることを目標に、新たな栽培方策を導入するなどして、普及拡大を図っています（平成 28 年度末 37.2%）。
- ・就農者の高齢化・減少が進む中で大規模集約化の方向にあり、認定農業者や集落営農組織、農業法人等の数が少しずつ増加しています。

（2）学校給食への利用



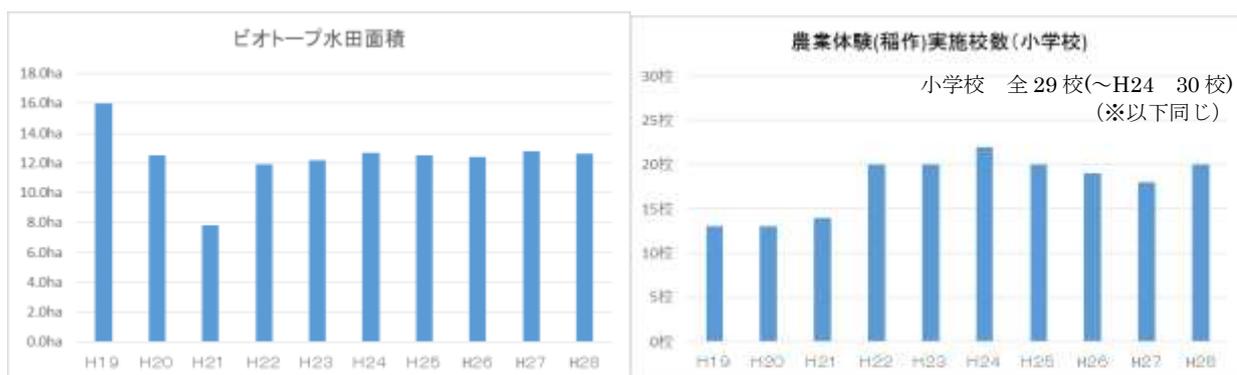
(3) 農業スクール研修生



【解説】

- ・(前頁) 米飯給食については、豊岡市コウノトリ基金を活用し、保護者の負担を増やすことなく、週5日全てが「コウノトリ育むお米」になりました。
- ・(左) 平成25年度に新規就農希望者が、就農に必要な農業生産技術と経営管理能力を習得できるように「豊岡農業スクール」を開校しました(研修期間:1年※更新により最長3年間)。卒業生は雇用就農、独立自営就農とそれぞれ市内で就農しています。
- ・(下) 休耕田の利活用策として、多様な生きものを育む「ビオトープ水田」としての管理委託を行っており、環境学習フィールドとしても活用しています。

(4) 休耕田の利活用



農業と福祉の連携



農業の分野においては近年高齢化が進み、耕作されない田んぼや畑が増えてきています。その一方、新しい担い手として期待できる取組みも出てきました。「農福連携」です。

障害がある方でも、力作業が得意な人、一つの作業に集中できる人、様々な特性があります。その特性を生かし、出来ないことを出来るようにではなく、出来ることをシェアすることでお互いが役割を担い、農作物を作る。新しい農業の形が、全国でも増えてきています。

豊岡市内でも、「暮らしの学校 農楽^{のら} (出石町鳥居)」や「森の学校だんだん (竹野町椒)」が、障害があったり対人関係が苦手な方に対する地域活動支援センター事業(※)の一つとして、耕作しなくなった田畑などを借りて、近所の方から指導を受けたりしながら農作業に携わり、収穫の喜びなどを感じながら楽しい時間を過ごしています。



直接耕作するだけでなく、農繁期に農作業の手伝いに行くなど地域との連携が広がれば、耕作放棄地の減少も期待できる取組みの一つです。

※地域活動支援センター事業...在宅生活をされている障害のある方々に対し、仲間たちと交流を深めながら創作的活動、レクリエーション、生産活動などを通じて、社会との交流を促進する取組み。

この調子で
がんばろう

2 平成 28 年度評価

- 環境創造型農業の作付け面積は引き続き増加している。
- 冬期湛水を行う水田が増えている。
- コウノトリ育むお米が、学校給食で毎日（5 日／週）利用されるようになった。
- ▲水稻作付け面積は減り続けている。
- ▲学校給食での豊岡産野菜の利用率が昨年に引き続き減少している。

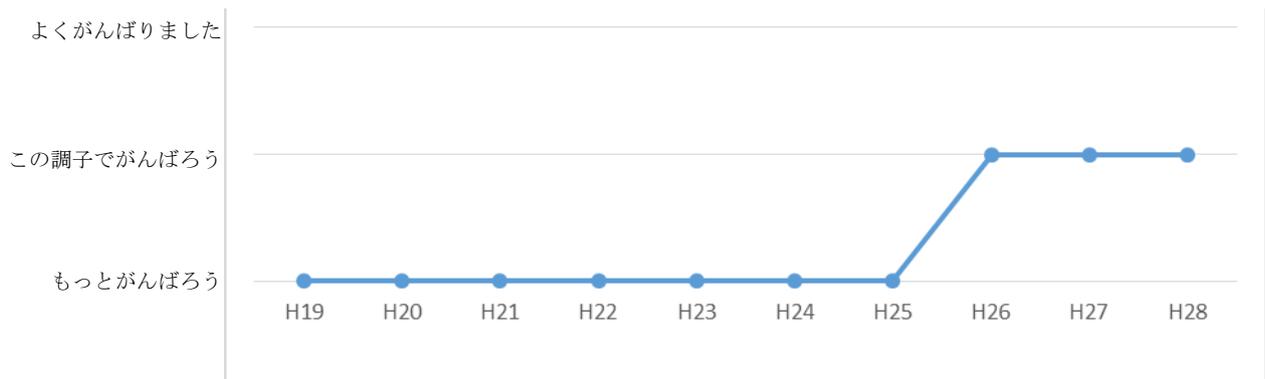
3 10 年間の評価

- 平成 28 年度から、学校給食では、週 5 日コウノトリ育むお米が食べられるようになった。
- 環境創造型農業の柱である「コウノトリ育む農法」の作付面積は大きく拡大している。
- 「豊岡農業スクール」が平成 25 年度に開校し、就農する若者を支援する仕組みができた。
- ▲休耕田の利活用策としてのビオトープ水田化が停滞している。
- ▲遊んでいる（耕作されない）田んぼは増えている。
- ▲農業就業人口は減少を続けている。
- ▲豊岡産野菜の学校給食への利用率は増加していない。
- ▲燃料作物（菜の花）の耕作等への転作が普及していない。

【環境審議会からの一言】

遊んでいる（耕作されない）田んぼが珍しくなくなり、以前のように“もったいない”という感覚も薄れ、“遊んでいる田んぼ”と言われなくなるほど常態化している。

【評価の推移】



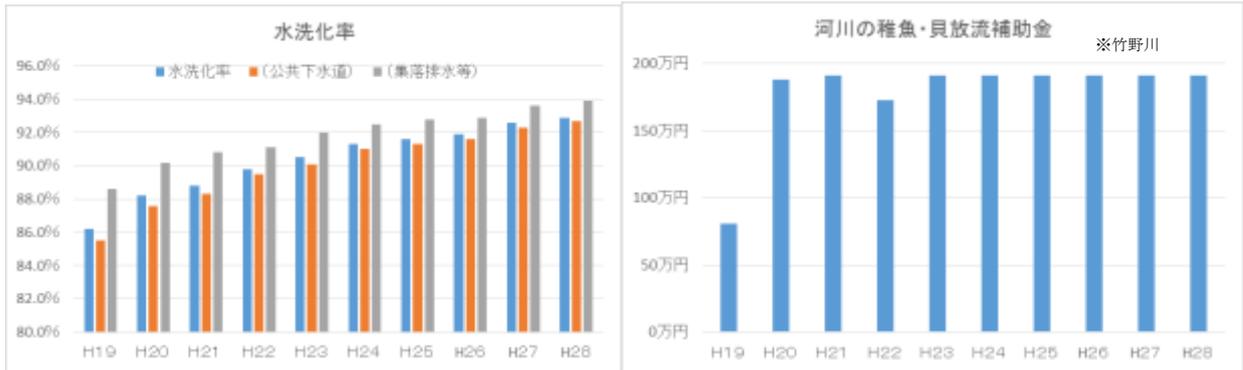
目標像 03 「あちこちの川で子どもたちが遊んでいます」

【具体イメージ】 川のごみを見かけなくなりました／水質が改善し、川にはたくさんの魚が泳いでいます／子どもたちがきれいな川で魚とり、水遊びをしています

【実現するための主な取り組み方向】 方向 02 川や海などの水辺環境を保全します／方向 08 地域から学ぶ学習・教育を進めます

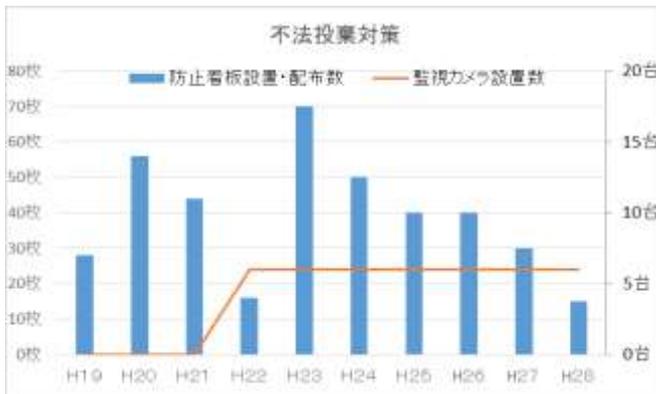
1 主な指標の変化（平成 19～28 年度）

（1）川的环境保全



【解説】

- ・河川の水質浄化につながる「水洗化率」は、95%を目標に毎年少しずつ向上しています。
- ・水産資源保全を主目的に漁業協同組合が稚魚や貝の放流を継続的に行っており、行政としても補助を行っています。



【解説】

- ・平成 27 年度以降防止看板設置・配布数が減少していますが、これは不法投棄多発箇所への設置が、ひと通り終了したためです。
- ・これまで、不法投棄を減らすための対策を講じていますが、状況は中々改善しません。



(番屋峠付近の様子)

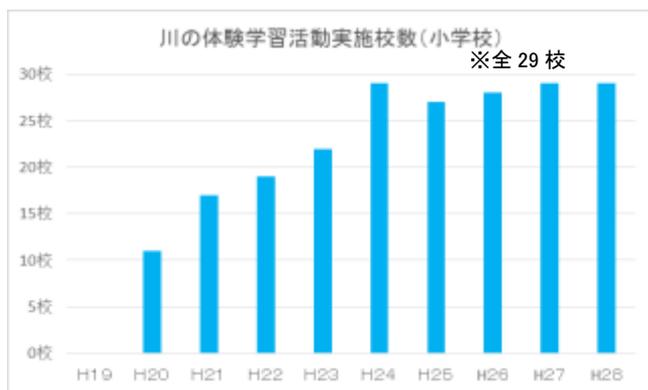
（2）学習フィールドとしての利用



※28年度の野外キャンプは、雨天のため中止。

【解説】

- ・子どもたちに自然体験を促す「子どもの野生復帰大作戦」においても、川は重要なフィールドです。
- ・近年の参加総数が減少したと感じるのは、運営上平成 22 年度から定員が設けられたため、子どもの数が減る中であって、コウノトリ野生復帰のまち・豊岡らしい事業として定着しています。



【解説】

- 平成 19 年度から兵庫県下で「環境体験学習」(小学校 3 年生対象)が導入されたこともあり、授業で自然体験が取り入れられています。川の体験活動も、全ての小学校で行われています。

川も友達。植村スピリット



「植村直己に学ぶ」野外活動実行委員会では、毎年夏休みに 7 泊 8 日の日程で、「植村直己に学ぶサバイバル体験教室」を行っています。

このキャンプの特徴は、毎日の宿営地が違うこと。さらに、豊岡市をはじめ、各地から集まった小学校 4～6 年生の子どもたちが、徒歩で移動すること。8 日間で歩く行程は約 70km ですが、蘇武岳を初めとした山々を越えたり、沢をさかのぼったりする厳しいものです。

サポートする大人たちと一緒に、自分の足で歩き、食事を作り、テントを設営するなど、自分のことは自分でする体験を通じ、自立心を養います。まだ涼しい朝に出発しても、宿営地に着くのは昼前。熱くなった体を冷やす特效薬は、川へのダイブ。子どもたちが、長い距離を歩き疲れていたのが嘘のように川遊びに興じる光景は、子どもたちの可能性を感じさせてくれます。



2 平成 28 年度評価

- 全ての小学校だけでなく、様々な団体や地域で、子どもたちが川に親しむイベントや活動が行われ、定着している。
- ▲ポイ捨てごみが減らない。
- ▲大雨の後は、河川敷の葦や刈り草などが海に流れている。

もっと
がんばろう

3 10年間の評価

○河川の水質浄化につながる「水洗化率」は95%を目標に毎年少しずつ向上している。

○市街地の水路や、城崎の大谿川などでも、ホタルを見かけるようになった。

▲ポイ捨てごみが減らない。

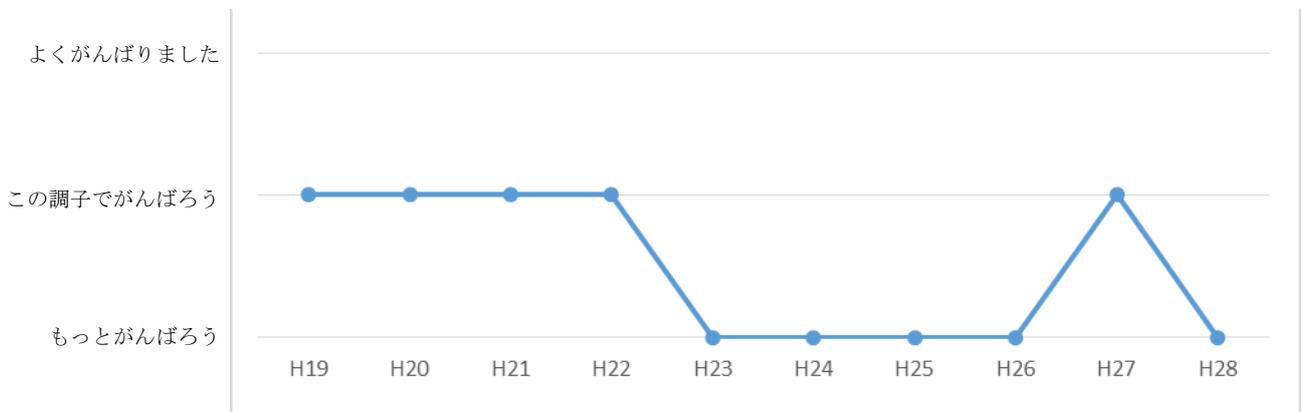
▲河川敷の葦や刈り草などの処理が出来ずに、大雨の後には海に流れてきている。

▲子どもの野生復帰大作戦の参加者数が減ってきている。

【環境審議会からの一言】

川に親しむイベントも開催されているが、スタッフの世代交代が進んでいない所が多く見られる。

【評価の推移】



目標像 04 「ごみのない海辺では、

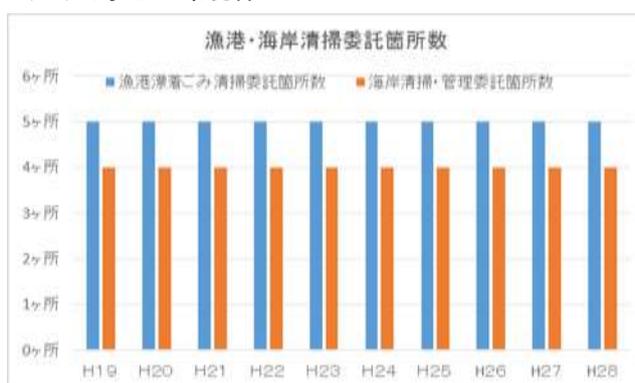
子どもたちが『磯遊び』を楽しんでいます」

【具体イメージ】 ポイ捨てや不法投棄のごみや、草刈後の草、稲わらなどが台風や大雨のあとでも海岸に漂着しなくなり／きれいな海岸で、子どもたちが砂遊びや磯遊びを楽しんでいます

【実現するための主な取り組み方向】 方向 02 川や海などの水辺環境を保全します／方向 08 地域から学ぶ学習・教育を進めます

1 主な指標の変化（平成 19～28 年度）

（1）海辺の環境保全



（2）学習フィールドとしての利用



再掲

※28年度の野外キャンプは、雨天のため中止。



【解説】

・子どもの野生復帰大作戦、小学校の環境体験事業（3年生）、自然学校（5年生）などでも、海岸を利用した体験が組み込まれています。

【解説】

・体験メニュー利用者の内、イカダ作り体験、ウミホテル観察、猫崎半島西側観察、地曳網体験、釣り体験の参加者数。

海をフィールドとした、子どもの体験を！

★トピックス！

山陰海岸国立公園や山陰海岸ユネスコ世界ジオパークに位置する竹野浜の魅力を体感してもらえる施設として、「竹野子ども体験村」があり、地引き網やカヌー、イカダづくり体験などのメニューが用意されています。



天候に左右されることの多い屋外活動ですが、塩づくりや干物づくり体験など、屋内で出来るメニューもあり、自然学校や臨海学校など学校の校外活動だけでなく、子ども会活動やPTA活動などの、親子でも楽しめる施設になっています。

時期や時間に応じたメニュー構成を組み立てられますので、気軽に相談ください。

2 平成 28 年度評価

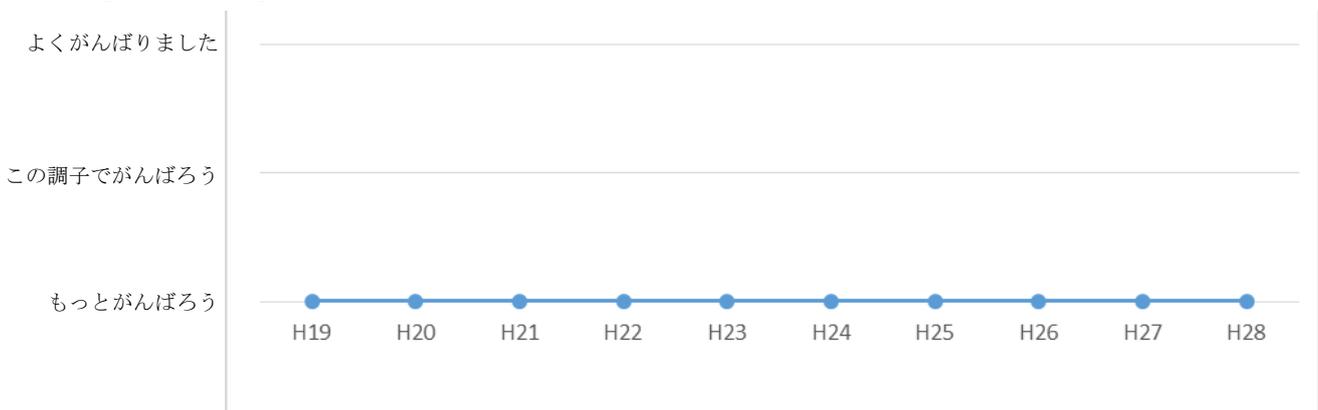
- 海岸を清掃するボランティア活動が、各地で継続的に行われている。
- ▲大雨の後の川から流れてくるゴミだけでなく、季節風や海流により、海外からもたくさんの漂着物が海岸を覆っている。

もっと
がんばろう

3 10 年間の評価

- 子どもの野生復帰大作戦が行われ、子どもたちが海など、自然のことを学ぶ機会が提供されている。
- 海岸を清掃するボランティア活動が行われている。
- 山陰海岸がユネスコ世界ジオパークにも認定され、これまで以上に、多様なアクティビティで利用されるようになってきている。
- 平成 27 年度に「竹野子ども体験村」が開設され、海を利用した体験活動に取り組みやすくなった。
- ▲大雨の後は川から流れてきたゴミが海岸を覆っている。
- ▲海外からの漂着物が減らない。

【評価の推移】



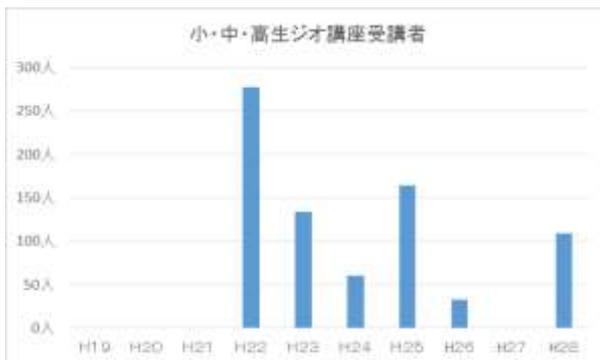
目標像 05 「子どもたちが地域の祭りや行事を楽しんでいます」

【具体イメージ】 おじいちゃんやおばあちゃんが、祭りや伝統行事を語り継いでいます／祭りや伝統行事が地域の暮らしから生まれたものであることを知っています／子どもたちは、地域の文化や歴史に関心を持ち、誇りに感じています

【実現するための主な取り組み方向】 方向 05 地域の文化や景観を保存し、活用します／方向 07 地域力を高めま
す／方向 08 地域から学ぶ学習・教育を進めます

1 主な指標の変化（平成 19～28 年度）

（1）地域を学ぶ機会



【解説】

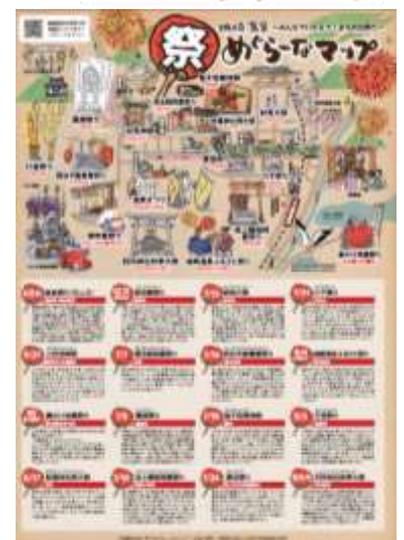
- ・「地域の中で受け継がれてきた時間や空間を感じる」「地域に誇りを持つ」など伝統行事やお祭りには大切な意味合いが含まれています。
- ・特に学校教育の中では、“地域を知る”という視点で、かなり意識して地域の歴史・文化・伝統芸能等の体験教育に取り組まれていると言えます。

「“祭”めぐらーなマップ」を作りました！

豊岡市商工会青年部城崎支部では、地域を元気にすることを目的に、地域の様々なお祭りがいつからどんな目的で行われているのかという事を1年間かけて調べて「城崎温泉“祭”めぐらーなマップ」を製作、全戸配布しました。

マップを見ると、誰もが知っている大きな祭りから、“そんなのがあったの？”という小さな祭りまで、数多くのお祭りがあることが分かるだけでなく、日頃、見かけたことはあるものの、あまり意識していなかった祠などの言い伝えなども紹介されています。お祭りの当日だけでなく、町を散策するだけでも楽しめるマップになっています。

マップを片手に、家族やグループで、地元の魅力を探しに出かけてみませんか。



【豊岡の民俗芸能・その他の伝統行事一覧】 出典：但馬民俗芸能応援隊※資料（H26.2）から転載

※一部情報を変更しています。

※但馬の民俗芸能・伝統行事を後世に守り伝えるため、復活・継承を支援することを目的に平成16年に発足した自主的な住民活動団体。

《民俗芸能》

	名称	伝承地	開催日	備考
1	法花寺万歳	法花寺	1月3日、祝い事、随時	県指定重要無形文化財
2	如布神楽	但東町中山 如布神社	2月3日、10月10日	
3	雷神社の御田植祭	佐野・上佐野・納屋 雷神社	4月29日	市指定無形民俗文化財 追継行事 H19に40年ぶりに復活
4	轟の太鼓踊り	竹野町轟 蓮華寺	8月14日	県指定重要無形民俗文化財 孟蘭盆施餓鬼
5	そうだろ節とヤチャ節	日高町西気地区	8月14日、15日	市指定無形民俗文化財
6	柳まつりおはやし	市内 小田井神社	8月1日、2日	
7	べろべろ節・松坂節	市内	8月14～16日	
8	来日のヤーチャ踊り	城崎町来日	8月14～16日、23日	
9	気比の祭文踊	気比	8月14日、15日	
10	轟大神楽	竹野町轟 森神社	10月第2日曜日	市指定無形民俗文化財
11	日吉太神楽	山王町 日吉神社	10月第2日曜日	
12	井田神社太神楽	日高町鶴岡 城山	10月第2日曜日	
13	盾縫神社太神楽	日高町鶴岡 保木	10月第2日曜日	
14	奥藤太刀振り	但東町奥藤 奥宮神社・須賀神社	10月第2日曜日	
15	赤野太刀振り	但東町中山 赤野神社	10月体育の日の前日	
16	ささ囃し(太鼓踊)	但東町虫生 安牟加神社	10月第2日曜日	農村歌舞伎舞台は県指定有形民俗文化財 市指定無形民俗文化財
17	大名行列槍振り	出石町内町 路上	11月3日	市指定無形民俗文化財
18	奈佐節(六条さん)	奈佐地区	随時	市指定無形民俗文化財
19	気多神社神楽	日高町上ノ郷 気多神社		
20	久畑三番叟	但東町久畑	活動中絶状態	
21	小田井太神楽	小田井町	活動休止状態	
22	宇日神社の三番叟	竹野町竹野 宇日神社	活動中絶状態	衣装・面・鼓・鈴が残っている
23	京成さん	竹野町森本	活動中絶状態	
24	角力取り踊り	但東町平田 春日神社		
25	百合の獅子舞	出石町百合	活動中絶状態	
26	森尾盆踊り	森尾	8月	
27	田結の六斎念仏	田結	活動中絶状態	
28	竹野相撲甚句	竹野町竹野 鷹野神社	活動中絶状態	
29	久斗文楽	日高町久斗	活動中絶状態	

《その他の伝統行事》

	名称	伝承地	開催日	備考
30	宵田十日えびす	日高町宵田 西宮神社	1月10日	
31	田ノ口の賽の神祭	日高町田ノ口 集落内	成人の日	市指定無形民俗文化財

32	但馬天満宮祭	但東町奥矢根 天満宮	2月3日	
33	京口庚申まつり	京口	2月3日	
34	赤石千本杵餅つき	赤石 兵主神社	2月17日	
35	出石初午	出石町内	3月第3土曜前後3日間	
36	松岡の御柱祭	日高町松岡	4月14日	市指定無形民俗文化財
37	赤花鬼子母神大祭	但東町赤花 法華寺	4月第3土、日曜日	
38	赤花大師祭り	但東町赤花	4月21日	
39	温泉祭り 古典行列・稚児行列	城崎町内	4月23日、24日	
40	絹巻神社の奉納相撲	気比 絹巻神社 子ども奉納巫女さん踊り	4月28日	
41	幟まわし	出石町宮内 出石神社	5月5日	市指定無形民俗文化財 端午の節句
42	田結お千度参り	田結 八坂神社	5月23日	
43	鼻かけ地藏祭	城崎町楽々浦 鼻かけ地藏	6月第1日曜日	
44	女代神社の茅の輪くぐり	九日市上町 女代神社	6月30日、12月31日	
45	久斗こども奉納相撲	日高町久斗 石龍神社	7月7日	
46	甚五郎万灯	出石町伊豆	8月24日に近い日曜日	
47	愛宕の火祭り	出石町中村 伊福部神社	8月24日に近い日曜日	
48	伊豆八朔のえんたびきの綱づくり	出石町伊豆	8月31日、9月1日	H9年より35年ぶり復活
49	今森放生会の子ども相撲	今森 八坂神社	9月15日	
50	豊岡のだんじり	市内各地	10月15日に近い土日	秋祭り
51	ジジババオコシ	中郷	10月体育の日の後最初の土曜日	
52	日出神社の千本もちつき	但東町畑山 日出神社	10月体育の日の前日	
53	城崎の秋祭りだんじり	城崎町内 四所神社	10月14日、15日	
54	出石の喧嘩だんじり	出石町大手前広場	10月15日に近い日曜日	
55	出石神社の奉納相撲	出石町宮内 出石神社	10月20日	
56	野の大注連縄替え行事	日高町野 北山神社		H9年11月16日新調、30年ごとに新調
57	江本千本杵餅搗き	江本 佐田彦神社	11月23日	
58	出石神社御年花祭り	出石町宮内 出石神社	11月23日	
59	来日の千本じき	城崎町来日		
60	荒木の地藏盆盛り物作り	出石町荒木		
61	坊岡の万灯会	竹野町坊岡		
62	下塚の万灯祭り	竹野町下塚		
63	三開相撲	大篠岡 三開山城	活動中絶状態	

2 平成28年度評価

○地域公民館では、地域の協力のもと、祭りや行事を楽しむことが出来る教室や講座などを実施している。

▲高齢化、少子化により、伝統行事の継続が難しくなっている。

もっとなんぼろう

3 10年間の評価

○伝統的な祭りや行事が引き継がれている。

○高齢者を対象に実施されていたグラウンドゴルフ大会を、子どもも参加する三世代交流型のものにするなど、工夫しながら行事を継続している地域もある。

▲高齢化、少子化により、活動の継続が難しくなっている伝統行事が増えてきている。

【評価の推移】



目標像 06 「コウノトリがすべての中学校区に住んでいます」

【具体イメージ】コウノトリ育む農法や市民が造った湿地が

広がりました／ドジョウ、カエル、バッタなどの生きものがたくさんいます／コウノトリが市内各地に舞い降りています

【実現するための主な取り組み方向】方向 03 農業を将来にわたって維持します／方向 04 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します／方向 08 地域から学ぶ学習・教育を進めます

1 主な指標の変化（平成 19～28 年度）

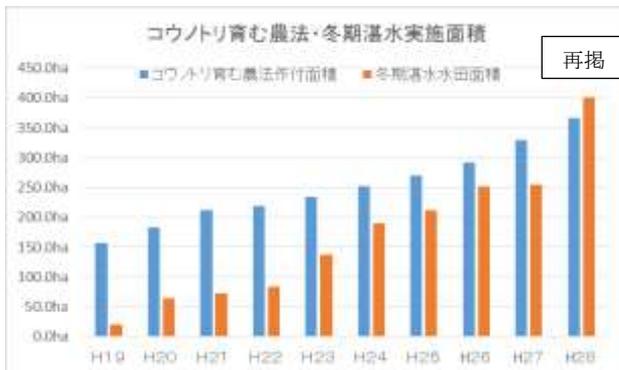
（1）野外的コウノトリの状況（各年度末数値）



【解説】

- ・平成 17 年の試験放鳥から、野外的コウノトリの自然繁殖も進み、個体数は順調に増加しています。
- ・コウノトリは、すべての中学校区に飛来し、その姿を見ることができます。
- ・ただ、港・竹野（平成 27 年度森本統合）の 2 中学校区には人工巣塔がなく、また但東中学校区、日高中学校区では人工巣塔はあるものの営巣していません。
- ・野生復帰したコウノトリは、市内のみならず全国各地を訪れています。
- ・野外的コウノトリは、1 年以上所在が確認できない場合は羽数から除いています（平成 26 年度～）。

（2）コウノトリが生息できる環境の整備



再掲

【解説】

- ・コウノトリは小動物をエサとする大食漢の鳥。増え続けるコウノトリが生息できるよう、市内全域に生きものを増やす取組みを広げようとしています。

平成 28 年度 小学校区別ビオトープ水田設置状況（単位：a）

地域	小学校	面積	地域	小学校	面積	
豊岡地域	豊岡	0.0 (0.0)	日高地域	府中	0.0 (0.0)	
	八条	33.3 (0.0)		八代	28.6 (28.6)	
	田鶴野	47.7 (62.2)		日高	18.1(18.1)	
	三江	61.3 (61.3)		静修	0.0 (0.0)	
	五荘	225.4 (225.4)		三方	57.5 (62.2)	
	新田	0.0 (0.0)		清滝	19.1 (19.1)	
	中筋	14.7 (14.7)		出石地域	弘道	0.0 (0.0)
	奈佐	116.5 (116.5)			福住	0.0 (0.0)
	港東	11.5 (5.2)			寺坂	0.0 (0.0)
	港西	0.0 (0.0)			小坂	0.0 (0.0)
神美	219.3 (219.3)	小野	68.7 (50.9)			
城崎地域	城崎	0.0 (0.0)	但東地域	合橋	316.8 (362.6)	
竹野地域	竹野	20.2 (20.2)		高橋	0.0(0.0)	
	中竹野	0.0 (0.0)		資母	0.0 (22.1)	
	竹野南	0.0 (0.0)				

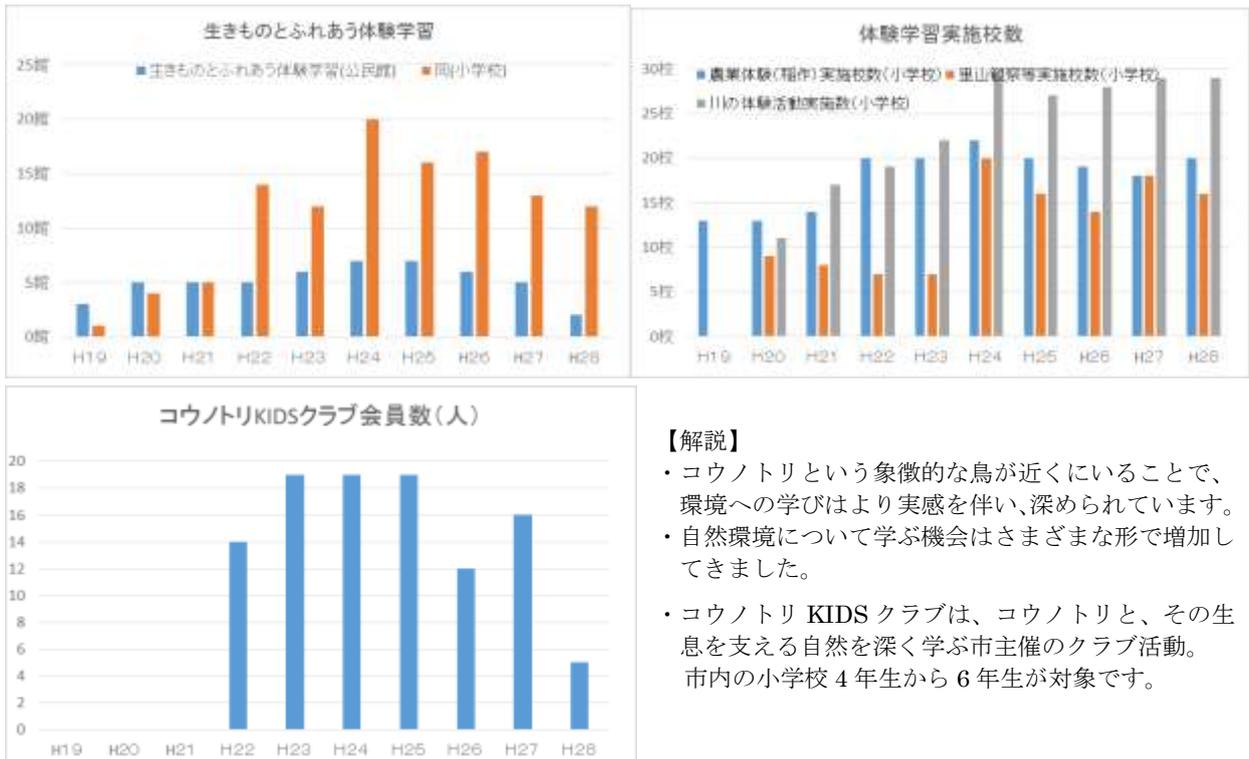
【解説】

- ・(上) 小グループで身近な自然を再生する「小さな自然再生」活動(ビオトープづくり、外来雑草等の除去など)を支援しています。
- 《平成 28 年度利用団体》
円山川菜の花の会・コウノトリの郷営農組合、ビオトープ八条・ひろちゃんクラブ・里山倶楽部『廻』・六方川を考える会など。

※()は平成 27 年度面積

※市内全小学校区を目標に、一定規模のビオトープ水田の設置を進めており、ご協力いただける農家の方にビオトープ（生きものが住む場所）水田としての管理委託を行っています。
ビオトープ水田では、学校と連携して生きもの調査の授業にも活用しています。

(3) 学び



【解説】

- ・コウノトリという象徴的な鳥が近くにいることで、環境への学びはより実感を伴い、深められています。
- ・自然環境について学ぶ機会はさまざまな形で増加してきました。
- ・コウノトリ KIDS クラブは、コウノトリと、その生息を支える自然を深く学ぶ市主催のクラブ活動。市内の小学校 4 年生から 6 年生が対象です。

祥雲寺巣塔で初の営巣・孵化



コウノトリの郷公園の前に立つ人工巣塔。建ててから長い間利用されずにいましたが、ようやく、平成 28 年、前年まで庄境巣塔（三江小学校敷地内）で営巣を行っていたペアのコウノトリが引っ越してきて、産卵・孵化となりました。

コウノトリの郷公園を訪れば、屋外で子育てしている光景も、すぐ目の前で見える状況が生まれ、多くの方の祝福の声に包まれました。

一方、三江小学校の庄境巣塔でも、早速に違うペアが営巣を行い、産卵・孵化となり、子どもたちの歓声が響きました。

コウノトリは、縄張りを持つ鳥類ですが、十分なえさが確保できれば、共存できることが分かりました。

2 平成 28 年度評価

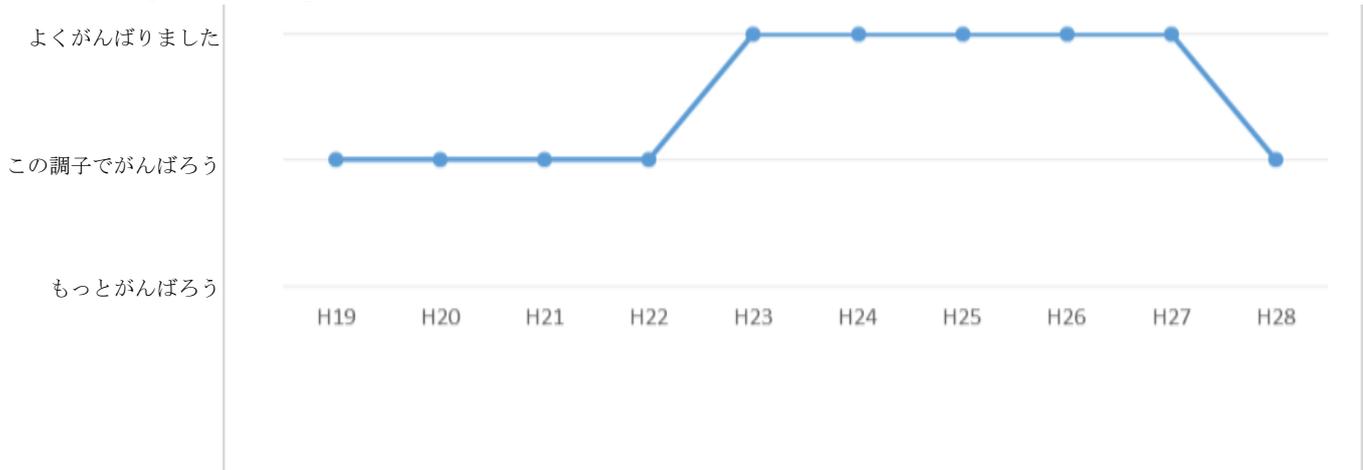
- コウノトリ育む農法・冬期湛水など、生息環境の整備がより一層進んでいる。
- 小さな自然再生活動の助成利用団体が増えている。
- ▲コウノトリ KIDS クラブの会員が減っている。
- ▲地域公民館（現 地域コミュニティセンター）での、生き物と触れ合う体験学習の実施が減っている。

この調子で
がんばろう

3 10年間の評価

- 環境創造型農業の柱の「コウノトリ育む農法」の作付面積は継続的に拡大している。
- 小さな自然再生活動助成金を利用して、えさ場づくりやビオトープづくりが広がってきた。
- コウノトリはすべての中学校区に飛来し、姿を見かけるようになった。

【評価の推移】



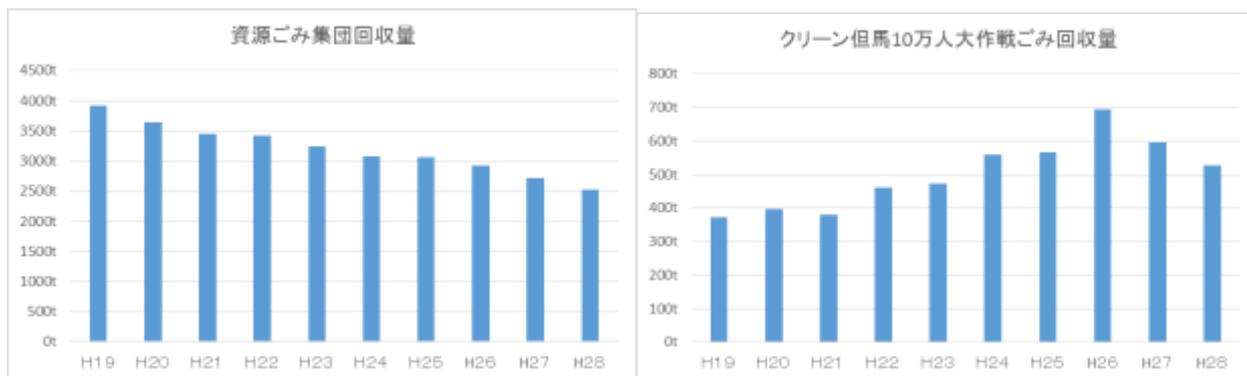
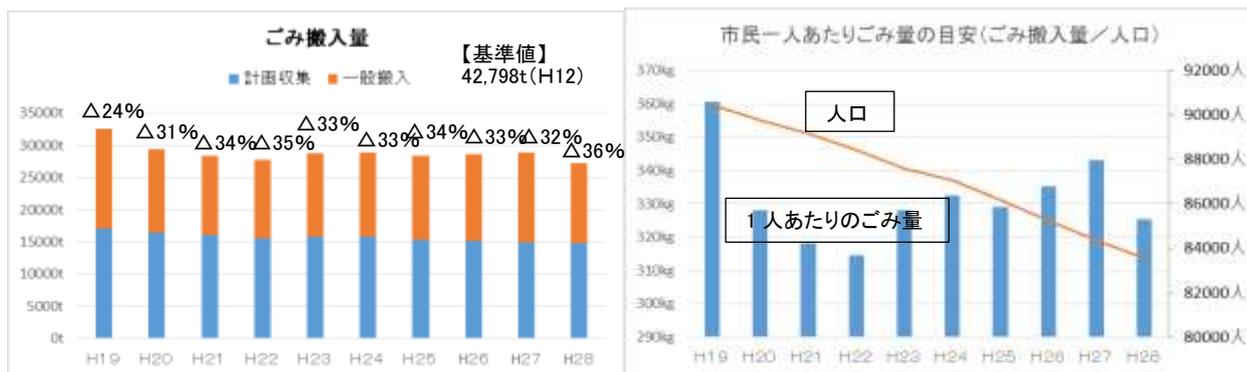
目標像 07 「収集されるごみの量は、ピーク時に比べ 25%減りました」

【具体イメージ】 日常生活を見直し、資源の無駄遣いをしなくなりました／生ごみは堆肥などに、使用済みの食用油は燃料として利用されています／事業者は、ゼロエミッションの取組みを進めています

【実現するための主な取り組み方向】 方向 06 ごみの減量・再資源化を進めます／方向 09 環境意識を高めます

1 主な指標の変化（平成 19～28 年度）

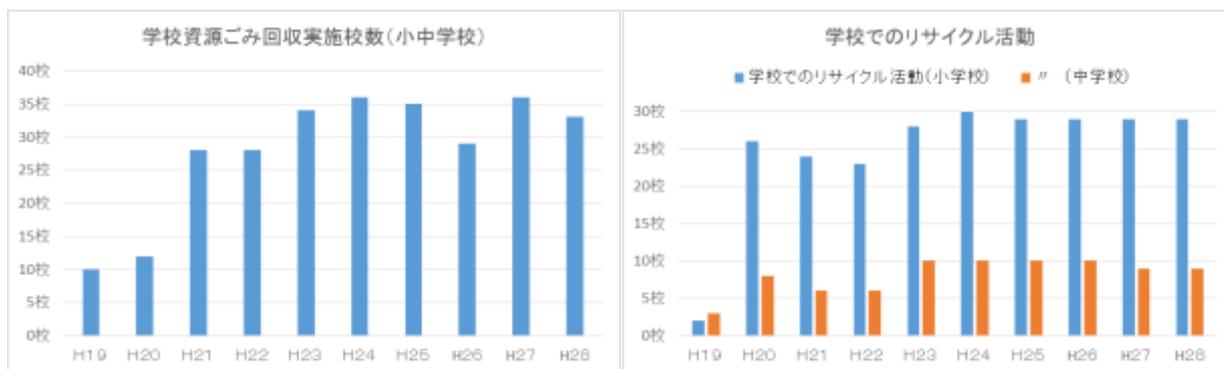
（1）清掃センターへの搬入状況等



【解説】

- ・ピーク時（平成 12 年度）からの 25%減は既に平成 20 年度に達成していますが、1 人あたりのごみ排出量は、人口減少に対し世帯数は増加していることや、各商店での過包装などにより、平成 22 年度を底値に微増傾向にありましたが、平成 28 年度には減少に転じました。

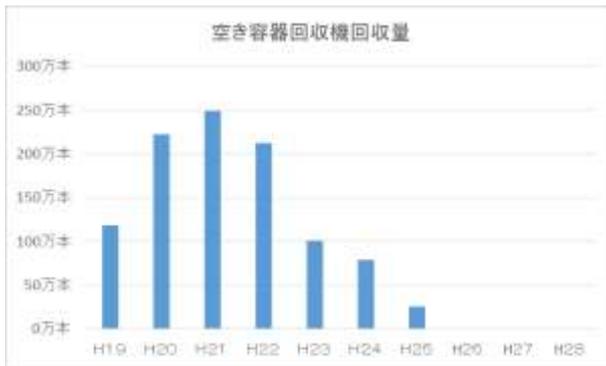
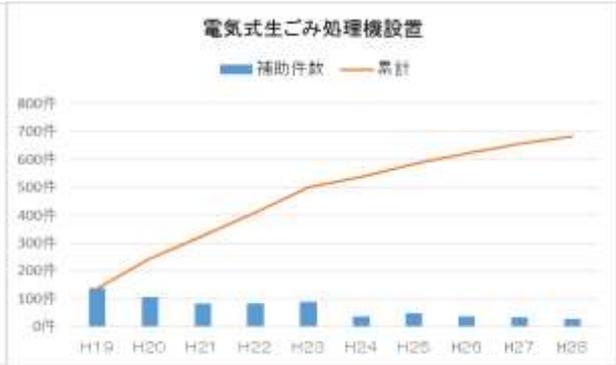
（2）学校での取り組み



【解説】

- ・(左)小中学校では、プラタブやインクカートリッジなどの資源ごみ回収に取り組んでいます。
- ・(右)PTAや地域と連携した資源回収活動も定着しています。市からの補助金等を含め、学校活動の資金源であることも大きなモチベーションになっているものと考えられます。

(3) ごみ減量に向けた多様な取り組み



【解説】

- ・ビニールハウス等の農業用廃プラスチックは、毎年持ち寄って集団処理が行われています。
- ・空き缶や空きペットボトルの容器回収機は老朽化や管理が困難になったことにより、設置されなくなりましたが、プラスチックトレイやペットボトルなどの回収BOXの設置が、スーパーなどの店頭で設置され、回収が図られています。

「クリーンパーク北但」稼働



北但行政事務組合(構成市町：豊岡市、香美町、新温泉町)が、森本・坊岡区(竹野地域)に整備を進めてきた北但ごみ処理施設「クリーンパーク北但」が、ついに4月からごみの受け入れを開始し、8月に竣工式が行われました。

この施設は、クリーンセンター(高効率なごみ発電もできる施設)とリサイクルセンターを併設する環境に優しいごみ処理施設で、最大 4,800 世帯分の発電能力を有するとともに、ゴミ区分を従来の6分別から9分別に変更して、これまで以上にリサイクルを進めるなど、環境に配慮した施設となっています。

また、施設内には環境学習コーナーや里山学習コーナーが常設されたり、屋外にも遊歩道やビオトープが設置され、環境について学べる施設として、今後大いに利用が期待されます。



2 平成 28 年度評価

○一人当たりのごみの量は、前年度比で5%減少している。

▲集団回収の回収量は減っている。

この調子で
がんばろう

3 10年間の評価

○平成28年度に搬入されたごみの量は、平成12年度に比べ36%減っている。

○商業施設においては、プラ容器やペットボトルの回収BOXの設置が進んでいる。

○ゴミの分別区分が、6分別から9分別に増え、リサイクル化が進んでいる。

▲商業施設などに置かれていた、空き缶や空きペットボトルの容器回収機は老朽化や管理が困難になったため設置されなくなった。

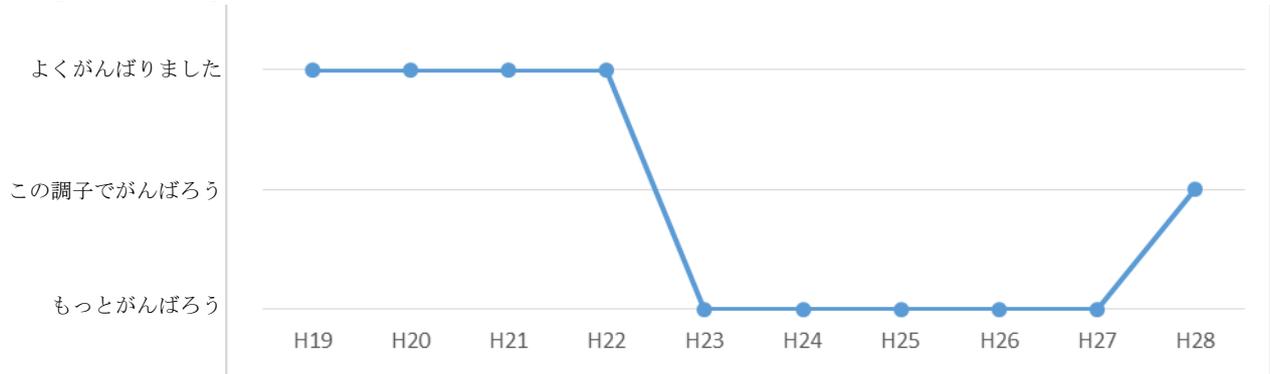
▲資源ごみ集団回収量は減少傾向が続いている。

▲クリーン但馬10万人大作戦によるごみ回収量は増えていたが、平成26年をピークに減少している。

【環境審議会からの一言】

高齢化が進み、地域で資源ごみ回収が行われても、出すことが難しくなっている世帯が増えてきている。

【評価の推移】



目標像 08 「子どもが安心して道草をしながら帰ります」

【具体イメージ】 学校からの帰り道で花飾りを作ったり、魚とり、虫取りをしています／
子どもが自然のことを学び、生きものに興味を持っています／通学途中に、散歩する
人、商売で行き来する人、農作業をする人がたくさん
いて、無意識に子どもたちの見守りが行われています

【実現するための主な取り組み方向】 方向 04 生きもの
のがバランス良く生息する自然環境を保全します
／ 方向 07 地域力を高めます

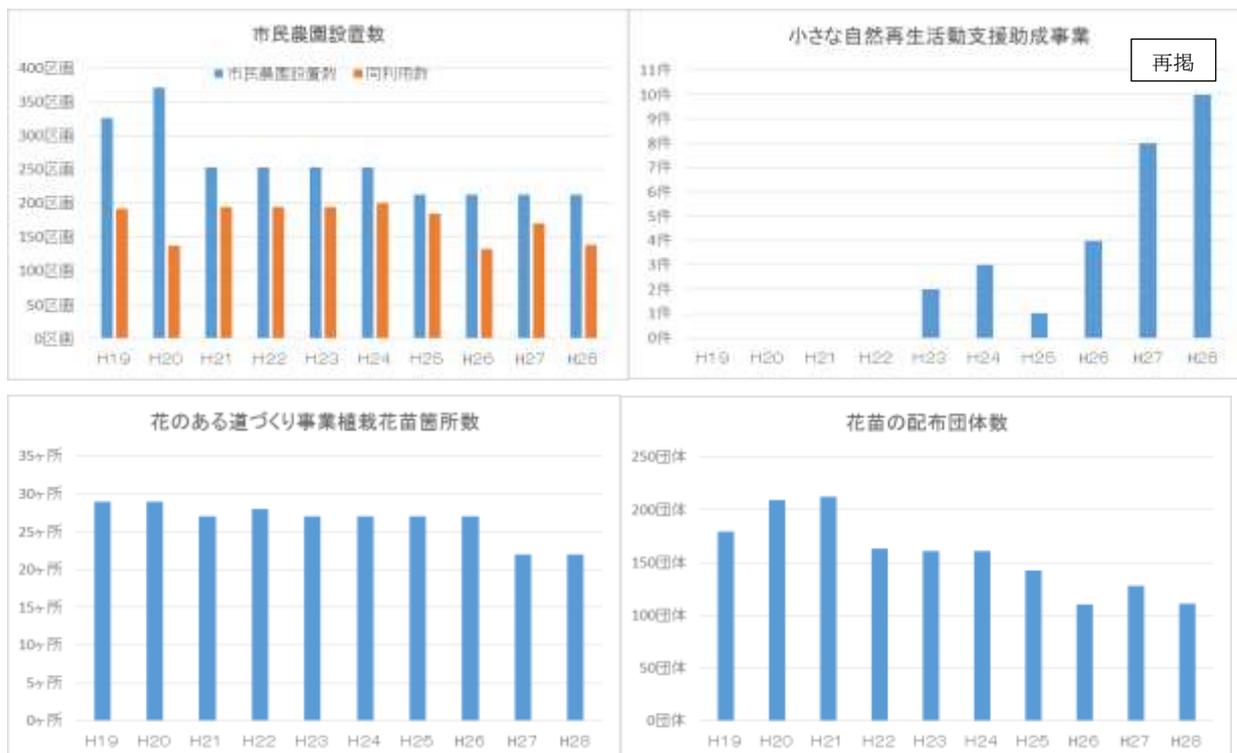
1 主な指標の変化（平成 19～28 年度）

（1）学校登下校時の見守り

【解説】

- ・子どもたちの安全な通学を確保するため、各小学校に設置された「まちづくり防犯グループ」を中心に、全ての小学校区で、登校時の見守りが行われています。
- ・ただ、見守りの使命はあくまで「安全な登下校」であり、「安心して道草をしながら帰る」という目標とは相容れない部分もあります。

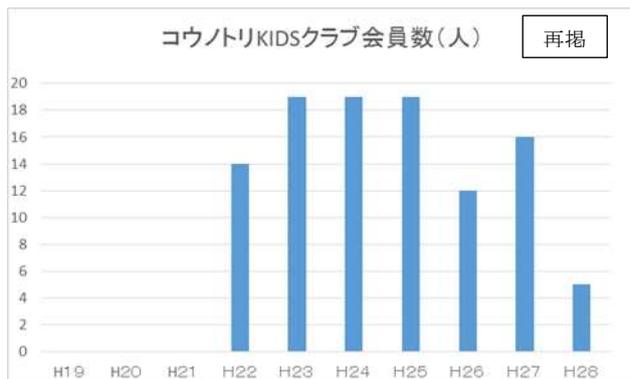
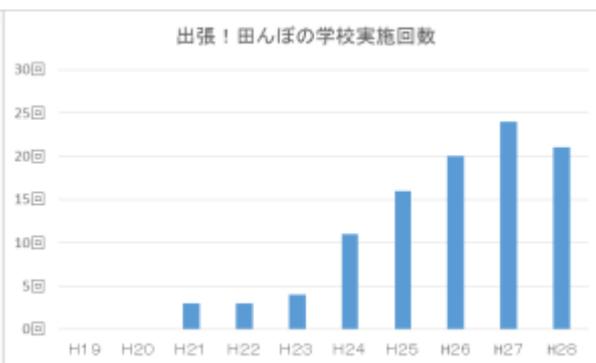
（2）道草環境の保全



【解説】

- ・これらは道草へ誘うことを目的とした取り組みではありませんが、通学路が花にあふれ、生きものにあふれ、いつも焔に人影があるような場所なら、地域の大人と子どもが顔見知りになり、ちょっと寄り道しても安心できます。

(3) 地域の自然環境への興味



【解説】

- ・コウノトリ文化館でイベントとして開催されている「田んぼの学校」の地域出張バージョンが、「出張！田んぼの学校」です。地域に講師が赴き、子どもたちと生き物調査をします。

地域防災訓練で、中学生も大活躍



8月最後の日曜日に、市民総参加訓練・震災総合防災訓練が開催されました。

日高地区公民館においても、地域コミュニティ組織準備会と共催で、日高防災公園まゆの里において、校区一斉の地域防災訓練を実施されました。防災訓練には、20名を超える中学生や高校生もボランティアとして参加して、「ぼうさい、ジャンケンポン！」の歌に合わせて体操したり、展示や炊き出しなどの各ブースに分かれて、役員の方々と一緒に頑張る姿に、参加された方々も楽しそうにされていました。

実際に、災害が起きた時には、仕事で帰れない大人も多く、中学生や高校生がイベントなどを通じて、地域の方々と知り合っておけば、大変心強い存在になると思われれます。



2 平成 28 年度評価

○登下校時の見守り活動が各小学校区で定着し、世代を超えた交流を育んでいる。

▲出張！田んぼの学校の実施回数が減っている。

この調子で
がんばろう

3 10年間の評価

- 小学校での「環境体験学習」が定着している。
- 公民館による「生きものとふれあう体験学習」や「出張！田んぼの学校」など、地域で世代間交流の事業が行われ、子どもたちが自然のことを学ぶ機会が多様に提供されている。
- 習い事やスポーツ活動、放課後児童クラブなど、子どもたちが道草をしながら帰る環境でなくなっているが、登下校する子どもたちを見守る活動が各小学校区で定着している。
- 平成 21 年度から「出張！田んぼの学校」がスタートし、地域においても、田んぼや川で子どもたちが生きものと触れ合う機会が増えた。
- ▲子どもの野生復帰やコウノトリ K I D S クラブの活動は始まったが、参加者数が伸び悩んでいる。

【環境審議会からの一言】

「道草をしながら帰ります」という目標像はイメージとしてはよかったが、評価の難しい目標だった。子どもたちが日常的に身近な自然に触れる機会が増えているとは言えない。

【評価の推移】

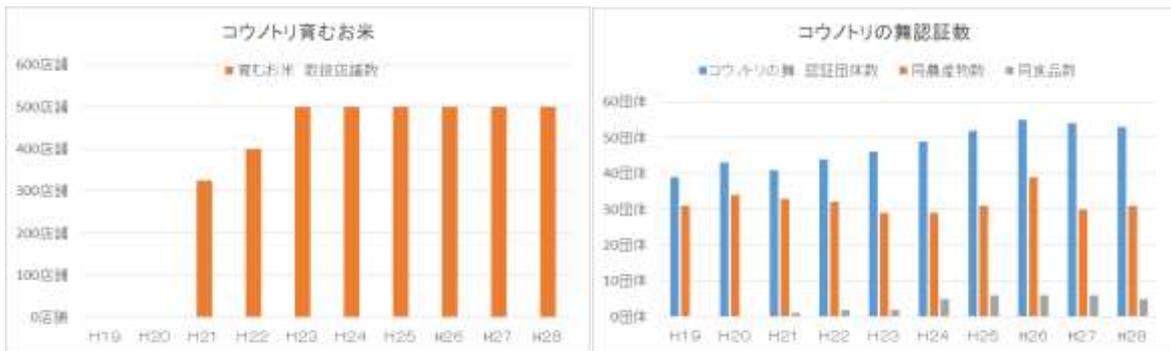


目標像 09 「たくさんの豊岡ブランドが生まれ、 市民みんなが使っています」

【具体イメージ】 豊岡で作られた安全・安心な農産物、かばん、ちりめんなどの商品が市内外で高く評価されています／市民が豊岡産品を購入し、日々の暮らしを楽しんでいます／市外の消費者は、豊岡の人が選ぶ物を購入することに安心を感じています

【実現するための主な取り組み方向】 方向 08 地域から学ぶ学習・教育を進めます／方向 11 地産地消を進めます／方向 12 環境と経済の共鳴を進めます

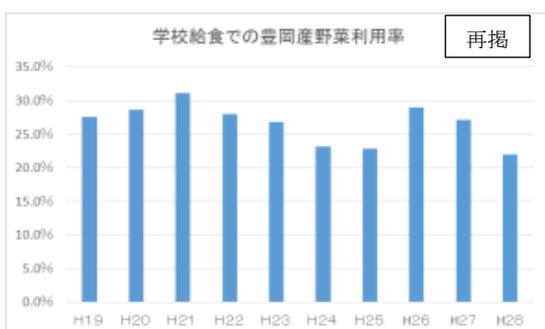
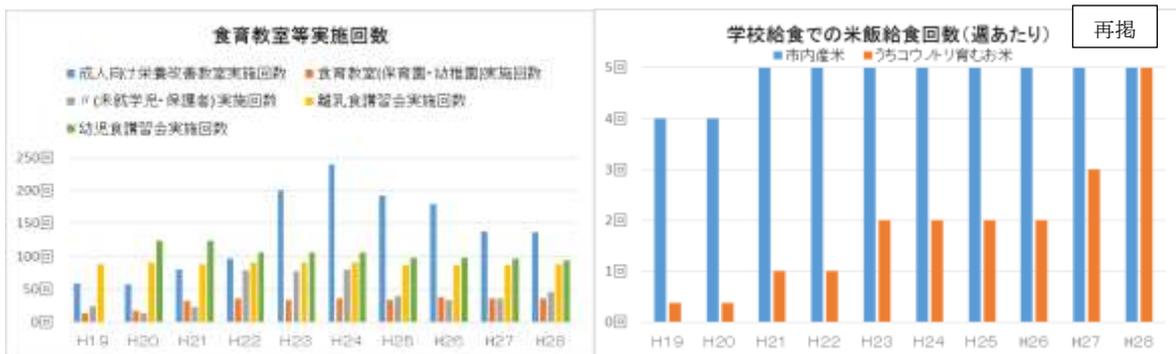
1 主な指標の変化（平成 19～28 年度） （1）豊岡ブランドの育成



【解説】

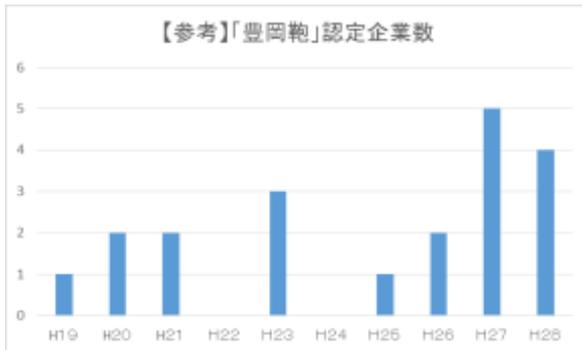
- ・豊岡靴や出石皿そば、但東の卵かけごはんなど「豊岡ブランド」はたくさんありますが、ここでは経年変化の分かる農産物を紹介しています。
- ・「物語のある商品」として、トップセールスや地道な販売促進の努力を続け、コウノトリ育むお米は東京や沖縄の量販店など、全国約 500 店舗で扱われ（さらに拡がりをみせています）、アメリカやシンガポールなどにも、少しずつですが輸出が始まっています。

（2）地産地消の推進



【解説】

- ・外向きに「豊岡ブランド」と呼ばれるものだけでなく、地元で採れたものを食べ、地元で作られたものを使う「地産地消」を広げようとしています。



【解説】

- ・「津居山港機船底曳網組合」では、毎年市内の小学校にセコガニを提供し、給食時に児童にカニの食べ方を教える取り組みを行っています。

ラムサール条約湿地の恵み。神水(カンズイ)わかめ

円山川下流に位置する田結地区で、例年、5月下旬に「わかめ祭り」が開催されます。

円山川や田結湿地から運ばれてくる豊かな栄養分に育まれた神水わかめは、栄養価が高いのはもちろん、歯ごたえもよく美味しいと好評で毎年多くの人で賑わいを見せます。

ラムサール条約では、湿地の「賢明な利用」が一つの大きな柱です。湿地を保全することで美味しいわかめが採れ、多くの人で賑わい、わかめも売れ、また湿地保全につながっていく。湿地の賢明な利用の好事例の一つであり、他の地域にも広がっていくことが期待されます。



2 平成 28 年度評価

- ニューヨークでも「コウノトリ育むお米」の販売促進が行われ、レストランでの食材として継続的に取り入れられている。
- コウノトリ育むお米を販売している小売店が増えている。
- 魚の漁獲量はわずかに増えている。
- ▲コウノトリの舞の認証商品数が減っている。



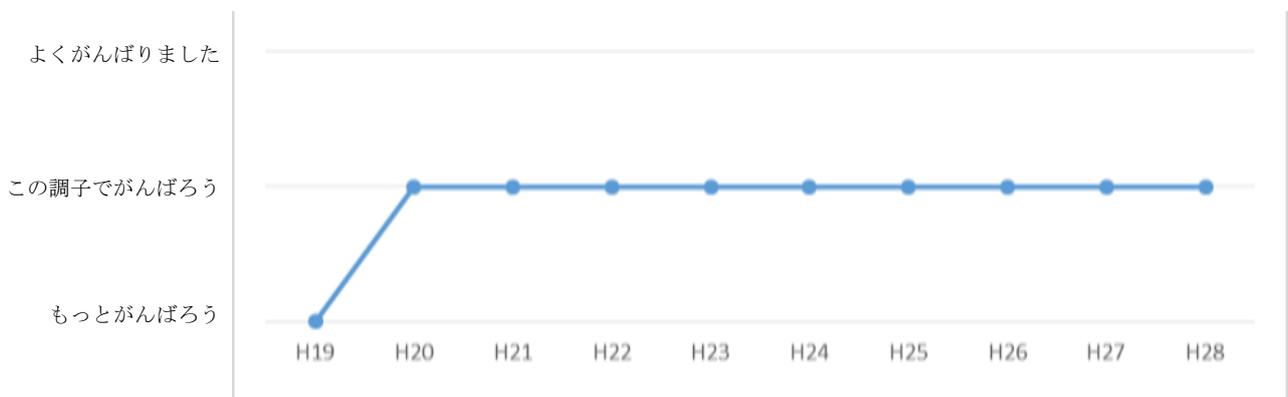
3 10年間の評価

- 首都圏や京阪神、さらには海外において、「コウノトリ育むお米」の販売活動が行われるようになった。
- 豊岡鮎の認定を希望する事業者が増えている。
- ▲津居山かきの漁獲量が減っている。
- ▲コウノトリの舞の認証団体数は増えているが、商品数は伸び悩んでいる。

【環境審議会からの一言】

漁業者の高齢化や後継者不足が深刻化している。

【評価の推移】



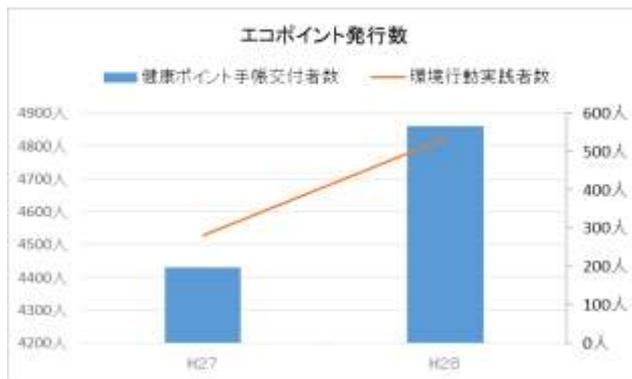
目標像 10 「市民みんなが、省エネ行動を楽しみながら取り組んでいます」

【具体イメージ】 地球温暖化防止の意識が高まり、化石燃料の使用を減らす行動が広がりました／冷暖房や電気機器のスイッチをこまめに切るようになりました／太陽電池の設置やアイドリングストップが進んでいます

【実現するための主な取り組み方向】 方向 09 環境意識を高めます／方向 13 省エネルギーに努め、新エネルギーの利用を図ります

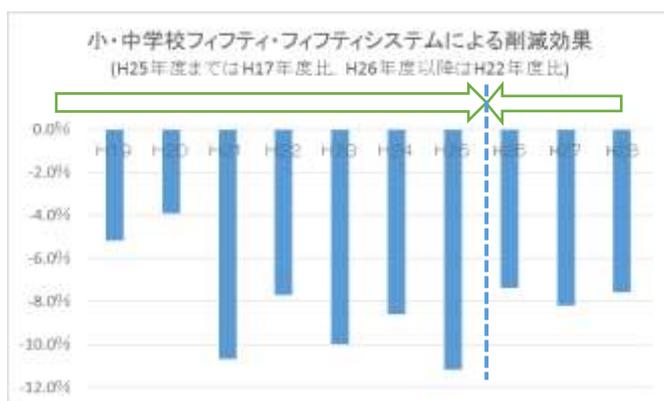
1 主な指標の変化（平成 19～28 年度）

（1）市民が楽しく



【解説】

- ・「市民エコポイント制度」と「健康ポイント制度」を統合した「健康・環境ポイント制度」が、平成27年4月から新たにスタートしました。これまで健康一辺倒だった方の興味が環境へも向けられるなど、利用者の相乗効果の広がりが期待されています。



【解説】

- ・環境教育の一環として、平成18年4月から市内の全小・中学校に「フィフティ・フィフティシステム」を導入しています。これは、光熱費（電気代）の節減分の1/2を学校に還元することで省エネを促すものです。
- ・学校への還元額は年総額300万円以上。各学校で希望する物品が購入されています。

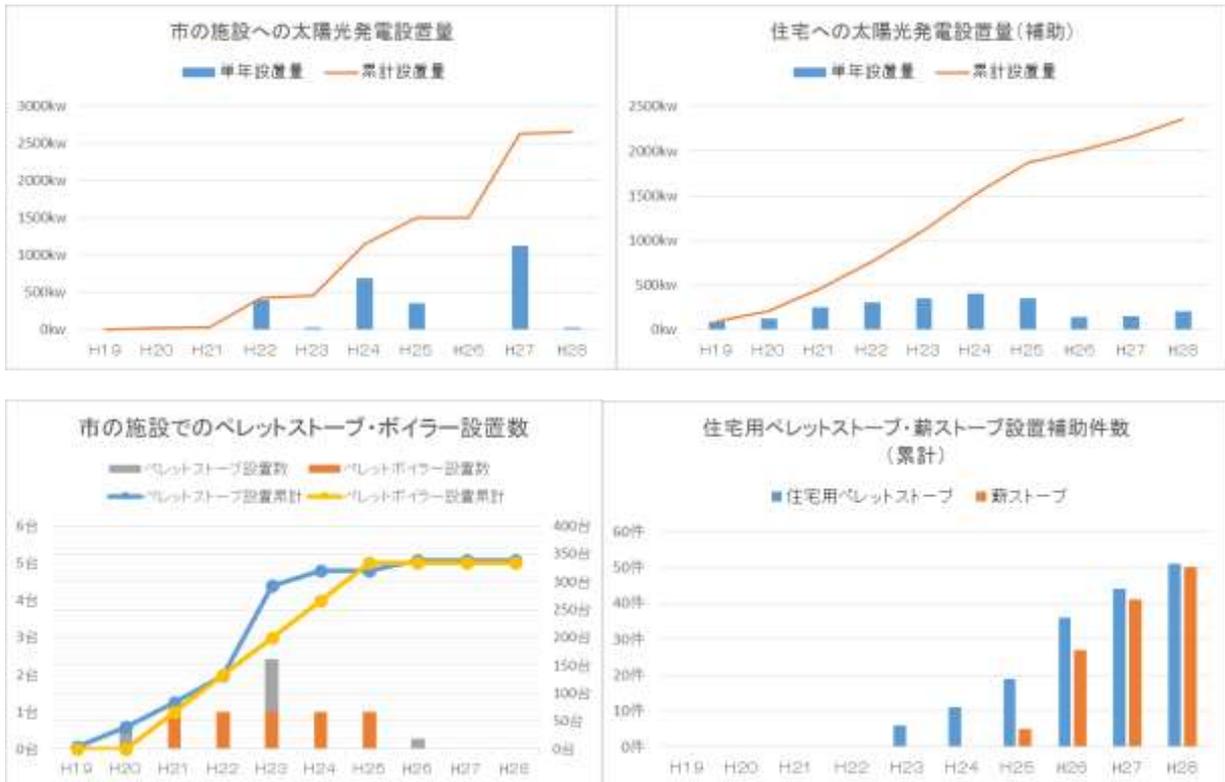
（2）企業の経済活動の中で



【解説】

- ・環境と経済の共鳴を促進するための補助事業は、「環境経済事業推進補助（平成18～21年）」「技術革新等支援補助（平成22～24年）」「ものづくり企業等支援補助（平成25年～）」と変遷しながら継続しています。
- ・平成25年度は補助件数・金額とも大幅にダウンしましたが、それは国に同様の補助制度ができたためです。全国に「環境経済」に対する共鳴の輪が広がっています。

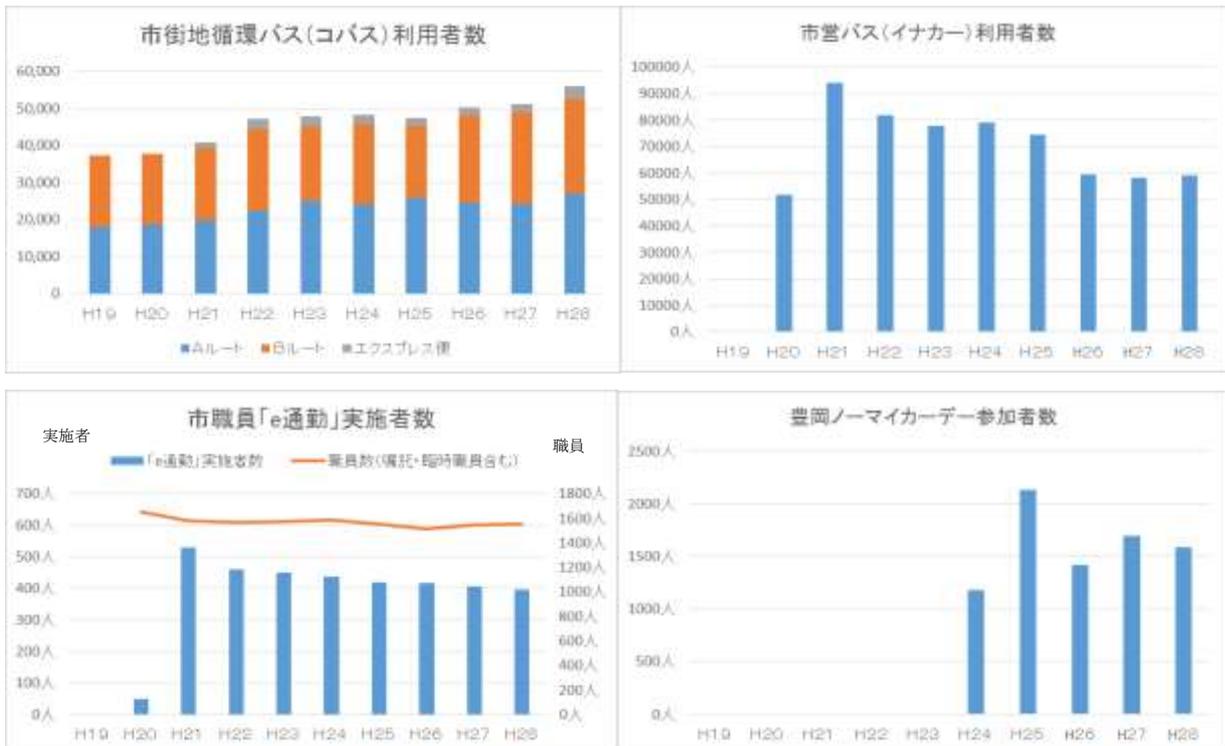
(3) 自然エネルギーの利用



【解説】

- 市は自然エネルギーの利用を推進しています。ペレットストーブや薪ストーブを使用することは、CO2 排出削減にもなり、山の資源の活用に寄与します。

(4) 公共交通の利用



バスに乗って、グラウンドゴルフ大会に！

★トピックス★

豊岡市が進める「ノーマイカーデー」のイベントの一環として、全但バス等の主催によるグラウンドゴルフ大会が1月に開催されました。参加の条件は、全但バスを利用して会場になる全但バス但馬ドームへ来ること。

いつもなら、1人、あるいは数人で車に相乗りしてグラウンドゴルフ大会へ参加することが多い中、この日は神鍋 200 円バスに乗って全但バス但馬ドームへ。

たくさんの人数が乗れるバスを利用することで、車中では遠足に参加した子どものように、楽しく賑やかな会話が弾んでいました。

大会には約 180 人が参加し、団体戦や個人戦の結果に一喜一憂する光景も見られ、楽しみながら CO₂削減に大きく寄与しました。



2 平成 28 年度評価

- リニューアルしたエコポイント制度の取組み者が、昨年度より増えている。
- ものづくり企業等支援事業の利用件数が増えている。

この調子で
がんばろう

3 10 年間の評価

- 太陽光発電装置の導入が進んでいる。
- 木質バイオマスの活用を図るために始めた個人用ペレットストーブ購入費補助制度が、薪ストーブや事業用にも拡充し、導入を促進している。
- 市街地循環バス利用者が増えている。
- 健康ポイントと市民エコポイント制度が統合され、健康に関心のある人、環境に関心のある人、それぞれが環境や健康についても取組むきっかけとなった。
- ▲市職員による「e 通勤」の取組みが継続されているが、実施者が減少傾向にある。
- ▲市営バス（イナカー）の利用者数が、平成 21 年度をピークに低迷している。

【評価の推移】

